

平成30年度

(一財) 熊本国際観光コンベンション協会

事業計画書

平成30年3月作成

(一財) 熊本国際観光コンベンション協会

【熊本市の状況】

熊本市の人口動態

- ◆出生率は政令指定都市の中で高い水準
- ◆年間出生率は概ね7千人台で推移し、自然増を続けているが、転出が上回っている

	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)
人口増減	1,679	1,852	663	19	▲1,216
①自然増減	802	841	700	294	178
出生数	7,158	7,364	7,066	7,090	6,965
死亡数	6,356	6,523	6,366	6,796	6,787
②社会増減	877	1,011	▲37	▲275	▲1,394
転入	27,698	44,120	43,028	42,286	44,487
転出	26,821	43,109	43,065	42,561	45,881

「人口減少」のフェーズへ

熊本市の将来指標



熊本市は2015年をピークに人口減少 ⇒ 経済規模の縮小や生活水準の低下

- ・経済規模の維持
- ・消費の増加

観光客(交流人口)の増加が重要

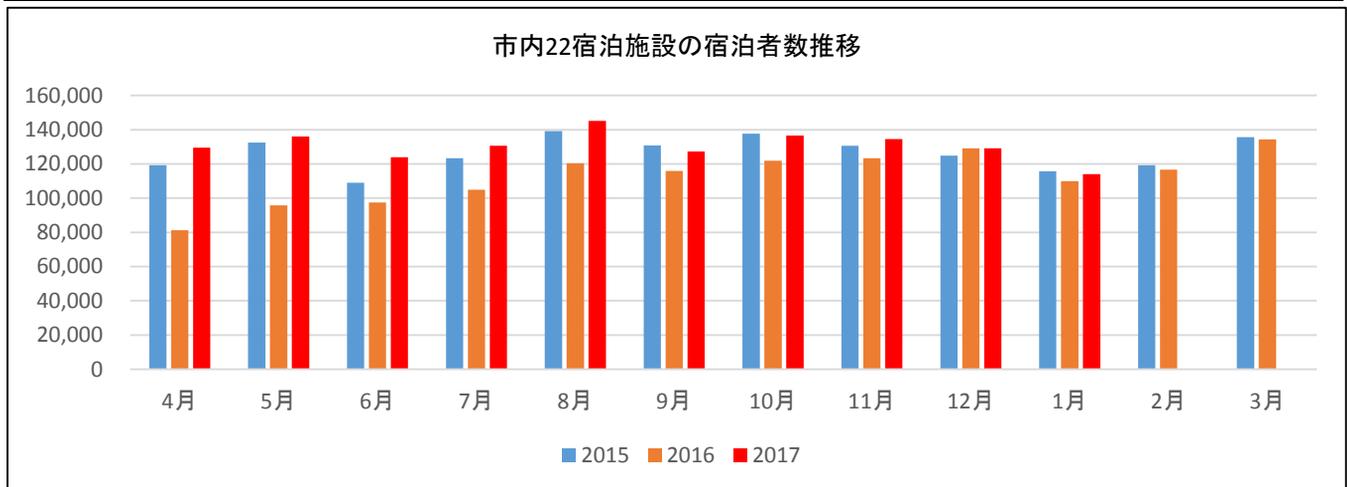
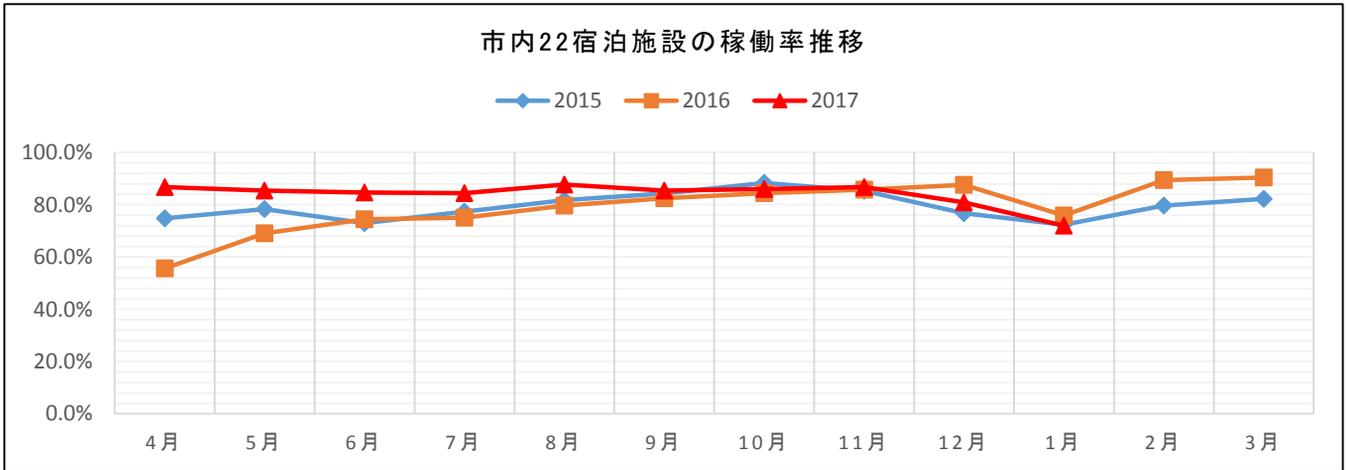
【今後の動き】

2017(H29)	2018(H30)	2019	2020	2021
●10/6小泉八雲記念館	●12/1 熊本博物館	●3/ 熊本城大天守	●12/1熊本城ホール	●3/ 熊本城小天守
	●1/10 市民会館シアーズホーム夢ホール	●夏 桜町再開発ビル		●3/ JR熊本駅ビル
	●1/ 熊本市総合体育館・青年会館		●3/ 漱石内坪井旧居	
●7/ グランメッセ熊本	●3/ 水前寺競技場	●3/ JR在来線新駅舎		●3/ 阿蘇大橋
	●4/ 県立美術館		●9/20-11/2ラグビーワールドカップ	●3/ 国道57号線
	●3/17JR在来線高架切替	●11/30-12/15女子ハンドボール世界選手権		
●8/27阿蘇長陽大橋開通	●2/28阿蘇火口見学		●7/東京オリンピック・パラリンピック	
●10/4阿蘇登山道南阿蘇側ルート開通				

【市内宿泊施設の現状】

熊本市の宿泊客数 ※熊本市観光統計より

年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
宿泊客数	2,228,212	2,345,922	2,430,234	2,479,459	2,637,637	2,531,200
前年比		105.3%	103.6%	102.0%	106.4%	95.9%



⇒稼働率は昨年より上昇

⇒宿泊者数は1昨年より増加

⇒復旧に伴う工事関係者等の宿泊者数を含む

【熊本市（観光関連）の現状】

- ◇ 「熊本地震」から1年半が過ぎ、復旧・復興の動きは加速
- ◇ 震災に対する関心や記憶が徐々に低下している
- ◇ 桜町再開発や熊本駅周辺整備などの再開発事業と2019年のスポーツ国際大会開催・東京五輪など、景気上昇の機運が見込まれる
- ◇ 4月以降、クルーズ船観光客が急激に増加(2018年は約70隻予定)

【現在の課題】 ※聞き取り調査含む

- ◆国内観光客の動向の変化 ⇒ 団体から個人へ ニーズの多様化
- ◆FIT(海外個人旅行者)を含むインバウンド対応 ⇒ サイン整備や多言語対応が不十分
- ◆インバウンド増加に伴う観光施設の変化 ⇒ 国内観光客の立寄り敬遠
- ◆安全面確保から熊本城復旧整備期間の立入が制限 ⇒ 国内観光客の減少

【コンベンション協会の目的】

交流人口の増



- ・ 地域産業経済の活性化
- ・ 文化の向上

【平成30年度の事業方針】

- ★ 刻々と変わりゆく熊本の変化を見据えた事業の推進
- ★ 変化する旅行形態やニーズに沿った誘致活動の実施
- ★ 受入体制の強化（再整備）に重点を置いた事業の推進

稼
ぐ
事
業
へ

I 新たな観光素材の創造

(1) 2019年国際スポーツ大会に向けたインバウンド受入体制の整備

⇒ 水前寺地区での日本文化体験メニューの整備・受入体制の構築

～様々な日本文化が体験できる「水前寺地区」を明確に商品化（有料化）
～各メニューを多言語で分かり易く紹介し、受付窓口も一本化

- ① 「能」の披露（水前寺成趣園内能楽殿）
- ② 「和食」体験（泉里、とらや、羅生門）
- ③ 「抹茶」体験（水前寺成趣園内古今伝授の間）
- ④ 神社参拝体験（出水神社）
- ⑤ 「細川流盆石」創作体験
- ⑥ 着物着付体験（美都）
- ⑦ 巫女体験（出水神社）
- ⑧ 座禅体験（玄宅寺）
- ⑨ 成趣園内でのレセプション開催



⇒ 植木温泉地区と開催会場までのアクセス構築と温泉旅館体験

～スポーツ選手関係者（＝家族など）をターゲット
～温泉やフルーツ狩りなどを楽しめるアクティビティの再整備と、
大会会場を結ぶアクセスの構築をセットして商品化

- ① 「温泉」体験（植木温泉旅館組合）
- ② 「和室」体験（植木温泉旅館組合）
- ③ 「フルーツ狩り」体験（吉次園）
- ④ トレッキング体験（田原坂周辺）



I 新たな観光素材の創造

(2) 「熊本城復旧基本計画」に沿った観光客誘致策の創造

- ⇒ 安全に見学可能な時間帯や見学ルート of 創造・提案・実施
～工事の進捗状況に応じ、見学エリア拡大を提案
- ⇒ 2019年秋予定の大天守外観完成に伴う誘致策の構築
～見学エリアや曜日等の情報に併せた誘致策
- ⇒ 2021年春予定の天守閣完成に伴う誘致策の構築
～観光客目線でのルート提案や広報周知案の作成
- ⇒ 熊本城を訪れる観光客実態調査と現在の観光誘致ツールとの比較・分析



(3) 変化に沿った新たなメニューの創造

- ⇒ 既存メニュー12プランの周知強化とニーズに沿った新たなメニュー構築
- ⇒ 南阿蘇村や益城町など広域でのメニュー構築と誘致連携強化
- ⇒ 歴史学習だけでなく、防災学習を高めるルート構築、またリニューアルした「熊本城ミュージアム わくわく座」を中心に、教育旅行の新たなメニューを構築・提案していく



(4) 復旧する文化施設や観光施設を活用した新たな観光素材の創造

- ⇒ 近日に全面開園予定の熊本市動植物園の魅力アップ策の構築・提案
- ⇒ 「ジェーンズ邸」復旧に併せた新たな観光素材の構築・提案
- ⇒ 現存する3ヶ所の夏目漱石旧居を活用した観光素材の構築・提案

II MICE誘致・支援

(1) 大規模コンベンションの戦略的誘致

⇒ 熊本城ホールの開業を契機に、県外宿泊数が多く、高い経済効果が見込まれる大型コンベンションを強力に誘致するため、コンベンション誘致特別加算制度の創設にむけた制度設計を早急に行う(=都市間競争ツールの強化)

加算制度のイメージ

- ◆対象 ①開催が決定していないコンベンション
②他都市との競合が認められるもの
③海外参加者300人以上、延べ宿泊者数300人以上の国際大会若しくは
県外参加者2,000人以上、延べ宿泊者数2,000人以上の全国大会

- ◆加算額 ①会期中の会場使用料相当額
②市内の延べ宿泊者数に応じた基準額
※①、②のいずれか安い額

⇒ **加算額は経済効果や他都市の状況を鑑み上限額を決定**

- ◆認定 加算認定審査会を設置し

- ◆交付 コンベンション開催助成金等の既存助成金とあわせて交付

※熊本市との協議を踏まえ、平成30年度中の制度施行を目指す

《参考資料》

九州の主要都市 開催助成制度比較		
都市名	金額(上限)	備考
北九州	10,000千円	
福岡	10,000千円	国内会議3,000千円
長崎	3,000千円	
佐世保	3,000千円	
別府	3,000千円	国内会議2,000千円
宮崎	6,000千円	
熊本	1,000千円	+別途特別加算1,000千円

⇒ 誘致案件の具体化による個別案件ごとの対応強化

- ・東京事務所との連携による首都圏本部への定期的な働きかけ
- ・誘致案件の他都市開催事例調査
- ・超大型誘致案件における施設の目的外利用についての働きかけ
- ・飲食店組合、商店街、地域等への協力依頼 など

II MICE誘致・支援

(2) 中小規模コンベンションの自発的開催促進 (1,000千円)

- ⇒ 地元の大学教授や全国規模の組織団体支部等のコンベンション主催者を対象とした啓発セミナーや相談会を実施
- ・熊本市コンベンション開催促進セミナーの開催
 - ・大学等での定期的な相談会の開催

(3) コンベンションコンシェルジュ事業の創設 (5,000千円)

- ⇒ 主催者ニーズを吸い上げ、コンベンション開催や誘致に対する利便性を向上させる取り組みを継続的に実施する
- ・会場(公共施設)の優先予約制度の確立
 - ・記念品、ノベルティーの提案
 - ・大会会場での土産品販売の積極的な対応
 - ・賛助会員とのビジネスマッチング(ケータリング、パンフレット制作など)
 - ・ユニークベニュー(城彩苑、水前寺成趣園でのレセプション開催等)のワンストップ窓口創設

(4) 物的支援の抜本的な見直し (4,960千円)

- ⇒ 熊本城ホールの開業によるコンベンション開催件数の増加を見据え、事業の継続性を前提に高い経済効果が見込まれるコンベンションに対し、インセンティブが働くよう支援内容を見直す

【見直し内容】

内 容	平成29年度	平成30年度	備 考
歓迎看板(主会場)	国際・全国・1,000人以上の西日本・九州大会	<ul style="list-style-type: none"> ・国際大会 ・県外参加者200人、宿泊者200人以上の全国大会 ・県外参加者1,000人、宿泊者1,000人以上の九州、西日本大会 	掲出要件の見直し
歓迎看板(空港到着ロビー)	国際・全国・1,000人以上の西日本・九州大会	廃止	到着降り口看板へ移行するため廃止
歓迎看板(熊本駅白川口)	助成対象すべて	廃止	新幹線口に統合するため廃止
歓迎看板(空港到着降り口階段)	—	県外参加者1,000人、宿泊者1,000人以上 県外参加者1,000人、宿泊者1,000人以上	<ul style="list-style-type: none"> ・県外参加者1,000人、宿泊者1,000人以上 ⇒いずれか1つを選択
歓迎看板(熊本駅新幹線口)	参加者1,000人以上、延べ宿泊者1,000人以上		<ul style="list-style-type: none"> ・県外参加者2,000人、宿泊者2,000人以上 ⇒いずれか2つを選択 ・県外参加者3,000人、宿泊者3,000人以上 ⇒すべてを選択可
タクシーマグネットシート掲出	参加者1,000人以上、延べ宿泊者1,000人以上		
コンベンションバッグ	1枚あたり50円	1枚あたり100円	
ビニールバッグ	無償配布	廃止	

Ⅲ 国内からの誘致促進

(1) 旅行商品造成セールス対象の拡充 (4,431千円)

- ⇒ 商品造成担当者に加え、営業・店舗販売担当者へセールス対象を拡充
- ⇒ 下期商品造成時期に併せた「西郷どん」関連の素材提供
- ⇒ H30下期・H31年上期造成時期に併せた「いだてん」関連素材の提供

(2) 観光客の動向・ニーズ調査

- ⇒ 観光案内所や宿泊施設と連携した動向調査を実施 ※消費額調査含む
- ⇒ 調査結果に沿った誘致策の再構築
- ⇒ 教育旅行誘致に向けた九州各県及び関西以西学校の方面実態調査を実施

Ⅳ 海外からの誘致促進

(1) インバウンド受入体制の再構築

- ⇒ 観光案内所を訪れる外国人を対象としたニーズ調査を実施
- ⇒ 調査結果に沿った外国語版観光ガイドマップの刷新(英語・韓国語・簡体語・繁体語)
- ⇒ 近年、来熊が増加しているタイからの観光客を対象とした観光ツールの作成
- ⇒ タブレットなどを活用した多言語サービスの研究・実施

(2) 海外誘致策の見直し(=現地セールスの廃止) (400千円)

- ⇒ 国内で開催されるインバウンド商談会への参加
- ⇒ 体験プログラム等のセールスツールを作成し、行政(市観光政策課)が実施する現地セールスに活用
- ⇒ 2019-2020年に開催される世界スポーツ大会に向け、外国人観光客誘致策として、海外に支店やグループ会社を持つ旅行会社やランドオペレーターに対して素材提供を行なう

Ⅴ 観光資源の活性化

(1) 「くまもとさるく」・「まち咲き案内人」の見直し (3,567千円)

- ⇒ 参加費の見直し(ひとり@500円⇒@1,000円へ)
- ⇒ スペシャルさるくの廃止 通常版のみ実施
- ⇒ 各区の地域担当職員との連携を図り、新たな素材の掘り起こしを実施



(2) 点在する観光素材の磨き上げ (28,370千円)

- ⇒ 文化財保護法改正に伴う新たな活用施策の検討・実施
- ⇒ 2019年ディスティネーションCPIに向けた観光資源の再発掘
- ⇒ 二次交通アクセスが不便な地域への観光タクシーの運行
 - ① 田原坂・西南戦争跡ゆかりの地を巡るコース
 - ② 宮本武蔵ゆかりの地を巡るコース
- ⇒ 二次交通と観光施設入場券付の「そらよかばいチケット(仮称)」の作成・販売

(3) 地域に密着した活動の支援・協力 (1,208千円)

- ⇒ 植木温泉地区・水前寺地区での活動に対する協賛金やマンパワーの支援
- ⇒ 水前寺地区で行われる祭りやイベントに関する実践的な協力
- ⇒ 「UDくまもと」や「春日人おてもやん」との連携

VI おもてなし・受入体制の充実

(1) 観光ボランティアガイドの資質向上と基盤強化 (8,036千円)

- ⇒ スキルアップ研修等の開催
- ⇒ 依頼件数増加に伴う運営協力の強化
- ⇒ 「くまもとよかとこ案内人の会」の法人化に向けての協力

(2) 観光案内所の運営 (28,407千円)

- ⇒ 城彩苑、熊本駅構内の案内業務を受託
- ⇒ ニーズ調査に基づく各種サービス提供
(二次交通チケット販売や外貨両替機の設置など)

(3) 二の丸無料休憩所の運営

- ⇒ 受入体制の強化に伴う施設拡張の提案・実施
- ⇒ 来城者ニーズの把握と対応



JR熊本駅内 新観光案内所

VII 広報・宣伝活動

(1) ニーズに沿った広報活動の見直し

- ⇒ 情報収集ツールとして利用頻度の高い各宿泊施設のHPとの連携確立
- ⇒ 外国語版観光ガイドマップの刷新(英語・韓国語・簡体語・繁体語)
- ⇒ 継続製作している観光ガイドブックの拡充
- ⇒ 観光ガイドマップとコンベンションガイドマップの統合
- ⇒ SNSを活用したプッシュ型広報の拡充・多言語化

(2) 観光説明会の見直し

- ⇒ 東京・大阪は継続開催、名古屋・広島は隔年開催へ変更

Ⅷ 協会運営基盤の見直し

(1) 第3種旅行業の取得(旅行業務取扱管理者の配置)

- ⇒ 取扱管理者の配置(試験合格者または取得者の採用)
- ⇒ 募集型旅行商品の開発・運営・販売の実施
- ⇒ 市役所の各種旅行手配業務(日帰りツアーなど)の受注
- ⇒ 観光案内所での宿泊予約・手配の実施

(2) 基本財産・運用財産の効率的な資金運用・管理の見直し

- ⇒ 高い運用益を得られる運用方法の研究・実施
- ⇒ 運用財産の効率かつ弾力的な運用を実施

(3) 協会事務事業の見直し

- ⇒ 定型業務のアウトソーシング・事務の統合・簡素化
- ⇒ 既存事務の休止・廃止や実施手法の見直し等による効率化
- ⇒ プロパー職員配置の見直しと、改正労働契約法の施行(無期転換ルール)に伴う嘱託職員の雇用条件再構築

(4) 収益事業の再開

- ⇒ 熊本市動植物園の段階的な開園に伴う売店業務の再開・拡充
- ⇒ 熊本城二の丸無料休憩所での復興応援グッズ等の販売拡充と施設拡充



現在の動植物園内 猛獣舎の様子



現在の動植物園内 第1売店の様子

(5) 収益に繋がる新事業展開

- ⇒ 飲食分野、交通分野など新規事業の研究と拡張
- ⇒ インターネット販売の拡大・強化

Ⅸ 年間行程

(1) 年間行程(案)

